

# 校友会報 113

## 目次

会長就任にあつて	
南雲 芳夫	1
会長の任期を終えて	
丹羽 宏之	1
校友会の皆さんへ	
高山 英華	2
100周年記念事業募金	
田中 一元	2
新しい高校をめざして!	
黒谷 義雄	3
100周年記念募金活動報告	5
エステック情報協会設立	6
学園だより	7
学園本部 大学	
高等学校 専門学校	
学生・生徒の活躍	
支部だより	11
台湾校友会だより	
杜 瑞 昌	12
東京地区支部統合	13
平成4年度支部総会予定	14
部会報告	15
お知らせ	17
新役員紹介	18
全国大会開催のお知らせ	19
総会開催のお知らせ	20
平成3年度	
事業報告書	20
収支計算書	21
貸借対照表	21
財産目録	21
平成4年度	
事業計画(案)	22
収支予算計画(案)	22

## ●ごあいさつ

### 会長就任にあたって

南雲 芳夫

会員の皆様、この度、丹羽会長の後を受け会長の任をお受けする事になりましたのでご挨拶申し上げます。

会員諸兄の中には国内はもちろん国際社会で、ご活躍の方々が多数居られるのに、私ごとき者が会長になどと、憚られる思いでございます。

工学院の校友の一人として、学園および校友会の発展を祈る気持ちは、誰にも負けない気持ちはあるものの、なんら特別の貢献をしたことのない私が、会長をお受けすることは、自らを省みて迷える小羊のような選択でありました。しかしながら、お受けした以上、精いっぱい頑張るつもりでございますので、何卒ご支援のほどお願いいたします。

校友会は校友の親睦と学園の発展に寄与することが、二大使命であり、この目的に向かって、歴代会長および先輩諸兄が営々築き上げてこられた流れを、少しでも勢いを増すことに微力ながら努力していくつもりであります。

各支部などに回って感じますことは、私は職場には「工学院出身だとは言っていない」という話をよく耳にします。これでは母校に愛着など生まれてきません。私達卒業生一人々が「工学院」の出身であることを家族に、友人に、地域社会に、さらには関係の各界に胸を張って、言えるようであればなりません。そのためには学園歌にあるように「工業日本を築きたり」の先輩の教えと自信を私達で取りもどそうではありませんか。

すでに学園では、就学人口が激減していく中でも、名声と発展のために、諸々の努力と実行が計られていることは、見聞されて居られることと存じます。校友会もこの役割の一端を担って行かなければなりません。工学院大学の名声と発展は、併設されている専門学校および高等学校にも連なり、校友会及び校友の誇りの根源です。

「年々歳々、花相似たり。歳々年々人同じからず」とは、古来からの真理です。花とは学園であり校友会です。この花が自然の花のように人間世界の転換に煩わされることなく、いつまでも見事に咲き、新しい時代の青年達の心をひきつけるように、私は会長の任にある間は、心を砕いて行きたいと思っております。

### 会長の任期を終えて

丹羽 宏之

光陰矢の如しのたとえのように、任期3年を今にして思えば速いと感じる反面、矢張り長いという印象はぬぐいきれません。

ところで、本校友会は、大学4系列学科、専門学校そして高校の6ブロックの卒業生会員を擁する大きな組織であります。この組織は、100年を越す歴史ある学園を背景にしている関係上、他に例を見ない極めてユニークな団体であると同時に、各ブロックの共通した利害得失に視点、目標を求めなければならないため、特定のブロックを主体とした積極的な活動、集中的な活動において、エネルギーの集中化がどうしても稀釈されてしまうという問題を看過できませんでした。

しかし乍ら、私にとって最も強く脳裏に残っていることは、校友会創立90周年事業の一環として行われた平成元年11月11日開催の記念式典とその祝賀会であります。

学園の再開事業で完成した新宿高層棟の最新施設に、全国より多数の会員の皆様が一堂に会し、先輩の功績をたたえ、懐古し、旧友との再会と親友、そして師弟の絆をより強くできたことなど校友会活動にとっても、洵に意義ある行事を遂行できたと喜んでおります。

また、平成2年に行われた静岡での全国大会も忘れ得ぬ大きなイベントでありました。その他、各部会の地道な活動、100周年記念募金事業協力委員会など特別委員会の活動、全国支部活動への支援、協力など数多くの事業活動を通じて本部役員、地方支部の会員の暖かい協力を忘れるものではありません。

さらに、事務局長始め、事務局職員の事務協力に対しても心から感謝するものであります。

そして、何はともあれ、学園側の絶大なご好意、ご協力、ご支援に対して、最大の敬意を表するものであります。

新しい時代に向けて、校友会の益々の発展を祈念するものであります。

### 校友会の皆さんへ

学園理事長 高山 英華

工学院の学園も皆さんのご支援で着々とその成果があがってきました。

平成4年度からは、校地、校舎の充実のみでなく、その教学内容の質的向上もはかれることになるものと確信します。

新宿校地と八王子校地を併せた二眼の構想を打ちだした。基本大綱や基本要綱に基づいて昨年は教学八施策を結成して、着々とその実現に向けて具体化を進めています。

新宿の再開設計画も本年の10月には待望の中層棟や第二超高層オフィス棟が完成します。中層棟には専門学校や情報センターや教職員、学生の食堂、休憩室などが入り、厚生福祉関係がずっとよくなるでしょう。また一階には大空間をもって卒業式や各種の催し物に使われるアトリウムが設けられ地域に開放され、街と一体となった地区となるでしょう。オフィス棟には主として情報関係の企業が入りエステック街区として特色が出ることでしよう。

また八王子校地では、100周年記念の高等学校の体育館が昨年末に完成しました。その八王子校地全体の整備計画も今後着々と進められて行くでしょう。校舎の整備のみでなく、新しい工業研究所の拡充も計られ、新宿と一体となって教育研究活動が活発になると思われます。

平成4年度からは、臨時定員増が認められ大学院の独立や拡充がはかれる一方、二部の再開や専門学校の夜学部の充実などが計られ、新宿の都心型大学の特色を一層強めて行くことになると思います。

すでに生涯教育センターは平成3年度に発足し多くの優秀な講師によって程度の高い公開講座が数多く行われて好評です。

また、工学のみにとじこもることなく、広く一般文化を重視した共通課程の充実や、心の問題を大切に、総合文化研究所などの構想も実現しつつあります。

このように学園全体としては色々の施策を行っていますが、何と云っても工学のみの単科大学ではその学生数の絶対量に限りがあります。

今後は学園の全体を考えた財政基盤の健全な運営が大切であります。

オフィス棟などの活用、寄付や研究費拡大など、各方面にわたって財政基盤の確立が最も大切な時期に入りました。

さいわい、100周年記念の各種の募金活動も皆さん方の御協力でその成果をあげることが出来ました。今後とも校友会皆さんの変わらない御支援を切に願いますのであります。

100周年記念の一応のくぎりに当りこれまでの御協力を心から感謝致します。

### 学園創立100周年記念

#### 事業募金について

学園常務理事 田中 元

(創立100周年記念事業事務局長)

卒業生の皆様には、学園創立100周年記念事業募金におきまして、多大なるご協力を賜り誠にありがとうございました。

100周年記念事業募金は、総合工学研究棟の建設、高校体育館の建設、教育研究設備の設置及び基金(研究奨励基金・奨学金)の設置を内容とする創立100周年記念事業を目的として、昭和62年4月1日からスタートし本年3月31日をもって終了いたしました。この間、皆様からの暖かいご理解とご支援をいただき、感謝の念に堪えません。

お申込まいただきました金額は、平成4年2月末日現在、個人4億8千万円(目標額の68.6%)、会社・団体5億7千万円、合計10億5千万円(同75.0%)に達することができました。このうち校友会関係は、卒業生の皆様から1億8千万円、卒業生の経営する会社等から6千万円のご寄付をいただいております。

以上のご寄付金と自己資金によりまして、総合工学研究棟の建設と、創立100周年記念高等学校体育館の建設、研究奨励基金並びに奨学金の設定等、各種の記念事業を行うことができました。これらの記念事業は、本学園のますますの発展のために欠くことのできないものであります。教育研究設備の設置につきましては、平成4年度の実施に向けて計画を進行中であります。

なお、事務局では募金終了後、収支決算をまとめ、寄付者ご芳名を記載した募金報告書を作成し、ご寄付をいただきました方々にお送りする予定であります。

最後になりましたが、このたびの募金につきまして、卒業生の皆様はじめ、校友会並びに同窓会役員の皆様の暖かいご支援に重ねて深謝申し上げますとともに、今後とも学園の発展のために一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。創立100周年記念事業募金のご報告とさせていただきます。

## 新しい高校をめざして！

工学院大学附属高等学校

校長 黒谷 義雄

校友の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお喜びを申し上げます。さて、広報部より体育館の完成、校名の変更など変わりゆく高校の姿について原稿を頂きたいとのことです。高校の最近の状況と将来の展望についてご紹介させて頂きたいと存じます。

すでにご案内のように、本学高校は平成2年度より工業科の募集を停止致しました。そして、普通科の定員を倍の400名に増やし、普通科高校として充実・発展させて行くことになりました。

ご承知のように、このところ高校受験生である15歳人口が減少致しており、とくに平成2年度から4年度迄の3年間は、元年度に比べ20%もの減少で急減期と言われ、どの学校も真剣に対策を検討し、対処して参ったところであります。

本学高校では、10数年前から工業科をどうするかという問題があり、検討を致しておりましたが、同僚間では仲々議論も出来ず、生徒急減期対策も立てられずにいました。ところが、昭和63年に体育館建て替えの話を具体化させなければならないことで、否応なしに高校のあり方について徹底的に検討せざるを得なくなりました。

その結果、将来を考える基本原則として、「第一に高校自体として財政的に健全であること、第二に時代に相応しい高校であること、そして第三に学園の高校として併設の大学・専門学校と整合性をもつこと」との方針を立てました。

これは、学園の将来計画に高校として積極的に関わる手だてであります。高校はこの方針に基づいて、工業科を廃止した訳であります。

工業科を廃止致しますことは、学校発展のためとは言え、容易なことではありませんでした。しかし、さほどの混乱もなく移行出来たのは、教職員を始めとする関係各位のご理解・ご協力によるものと、心より感謝致しております。

今や高等学校は、教職員一同の協力のもとに、積極的に、学園の高校として時代に相応しい学校づくりを展開しております。つぎにその一端をご紹介させて頂きます。



### 新体育館の完成について

生徒・教職員ともに待望の学園創立100周年記念体育館が、昨年12月に完成を致しました。

竣工式は12月24日（火）に、高山理事長・波多野八王子市長はじめ多くの方々のご出席を頂き挙行了いたしました。

2階建てで、1階は柔道場と多目的利用のフロアに分かれ、これらのスペースに隣接したブロックには、シャワー室、更衣室、教員控え室などが設けられています。



2階はバスケットボールの練習用コートが2面取られており、試合用コートも取れるようになっております。このフロアには1600席の椅子を並べることが出来、固定されたステージも設けられています。

また、2階アリーナ入口には、直接外から入れるように大階段が取付けられています。

そして、中2階部分と大階段下にクラブの部室が造られました。20年来の懸案であった体育系クラブの部室も出来、喜んでます。

工業科廃止に伴い、財政的見通しが好転を致しましたのと、校友の皆様をはじめとする多くの方々のご寄付の賜物でございます。本当に有難うございました。また、竣工式に際しましても校友会より多額のお祝いを賜り、有難うございました。重ねて御礼申し上げます。

### 新しい普通科について

工業科の廃止に伴い、普通科の教科内容を変更致しました。学園の高校としての役割を考え、製図、パソコンな



どを履修させ、工業色を帯びた普通科として特色づけることに致しました。これはやや時代の先取りをした取り組みでございます。

### 制服の変更について

今年度より全学年普通科になりましたが、これを機会に、制服を山本寛斎氏がデザインした、オリーブ色のスーツに変えることに致しました。新1年から順次着用させますが、教育活動に外観からも刺激を与えようとの試みでございます。

### 校名変更について

今年度より校名を「附属」をつけて「工学院大学附属高等学校」と変えることに致しました。大学への推薦枠も1部50%、2部20%と合わせて、70%が可能と言うことになり、まさに附属であり、受験生の学校選びに対し、心理的な影響を与えるであろうとの意図であります。

生徒減少期にあたり、生徒募集上少しでも役立つ可能性があればやってみようと言うことで、本学高校の進むべき方向を明確にすることでもあります。大学との連携がこれ迄以上に意識され、併設の利点が積極的に活かされるでしょう。

### 施設の改善について

すでに、本館と別館との渡り廊下、パソコン教室など、可成り多くの改善工事を行って参りましたが、本年度は更に、医務室、応接室、教育相談室、生徒指導室、進路指導室、進路資料室、多目的教室、生徒会室などの整備致しますし、来年度には、図書館、L.L.教室、大教員室、会議室などの整備を予定しています。

これ迄、機械、電気、建築、工業化学、普通の5つの科をもち、限られた財源の中で、何れも施設に不自由をしていましたが、今年度より普通科だけになり、他4科の施設を普通科用に改修することで、かなり良い学習空間、教育空間が出来ることになります。

変わりつつある高校について、概略をお知らせ致しましたが、常に、より良い高校をめざして教職員一同頑張っておりますので、これからも変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

## ●100周年記念事業募金活動報告

過去5年間の長期に及んだ学園創立100周年記念事業募金も、本年3月31日をもって終了しました。

目標3億を達成することが出来ず、まことに残

念ですが、ご寄付をいただきました皆様の暖いご支援と多大なるご協力に心より感謝申し上げます。

なお、校友会各同窓会別募金結果(平成4年2月末日現在)を、次表通りご報告いたします。

(単位:円)

区分	件数	金額	
卒業生	5,590	180,744,360	
在学学生 在学父母	大学	4,133	170,947,500
	高等学校	2,325	60,160,000
	専門学校	1,780	36,410,000
	小計	8,238	267,517,500
人	役員・教職員 (外. 104)	26,121,854 (外. 13,850,000)	
	元教職員等	107	8,250,000
合計 (A)	14,122	482,633,714	
会社・団体 (第2期) (B)	505	323,743,400	
総計 (A+B)	14,627	806,377,114	

各同窓会	金額(円)
機械同窓会	32,994,360
応化会	30,933,000
電気同窓会	24,996,000
建築同窓会	29,181,000
高校同窓会	16,758,000
専門同窓会	31,988,000
工手学校	13,894,000
卒業生の経営する企業	61,665,000
合計	242,409,360

- [注] 1. 募金目標額 申込金額 払込金額  
個人 7億円 482,633千円 478,221千円  
会社・団体(第2期) 4億円 323,743千円 324,843千円  
2. 会社・団体の1・2期累計: 申込金額565,643千円、払込金額564,533千円  
(同累計には卒業生の経営する企業及び校友会等からの寄付61,665千円を含む)  
3. (外.) は本学園卒業生で、卒業生欄に含まれているものの再掲。

## 校友多数在職企業世話役懇話会について

平成3年10月26日に校友多数在職企業世話役懇話会が母校で開催された。

この会の目的は、100周年記念事業募金促進の一助として企画されました。

世話役懇話会の開催を経て、募金実績は平成3年度末を以て成功裡に幕を閉じた。この懇話会は今後の校友活動の支柱の一つとなると考えられます。



## ●エステック情報協会設立

この企画は、校友20名以上(応化会は10名以上)の企業184社を対象としました。

今回の会合の賛同企業は86社(呼び掛回収率: 40.2%)当日参加企業は58社、参加数は87名、来賓数は6名(学長・常務理事他)、校友会本部は9名、参加総数は102名であった。

学園より各種資料が配布され、学園の近況・再開発状況・就職情報等の説明があった。つづいて懇親パーティーの宴が賑々しく催された。

各種情報の交換・同業種企業の連帯感・同族企業間の連帯感および異業種交流等々有意義な会合となり、募金抜きでこのような会合開催の宿題を主催者に課せられた次第であります。



着々と準備整う

## 「エステック情報協会」 設立への現況

現在、入会希望会員(企業)は、約20社。予定数よりかなり下回っていますが、少ない会員でも今秋竣工の「エステック情報ビル」に入居して組織運営できるよう、準備委員会を中心に斬新なアイデアと叡智を結集して鋭意研究しております。

その結果、漸く設立の目途がたち、近い将来、発足できることが確実となりました。

同窓会別分布表

機械	応化	電気	建築	高校	専門	備考
社 59	社 ※6	社 66	社 51	社 0	社 3	社 ※+30 (10名以上)

今回参加されなかった方々および今回対象から洩れた企業も今後の企画に共鳴頂ければ幸いです。

この度の企画に賛同され、企業内の募金促進に協力頂くと共に貴所属企業校友の修正情報を多数お寄せ頂き一方、既設企業支部の地盤固めさらに企業支部設置に協力頂いている校友の皆さまのご協力を深謝申し上げます。

バブル経済がはじけ、経済界は不況の波をうけて、極めて厳しい状況ですが、今こそ、この逆境を乗り越える戦略とパワーが企業に要求される時であります。

最先端インテリジェントビルとして学園街の一角を占める「エステック情報ビル」に、この情報協会が拠点をもち、ユニークにして、特異な事業活動を会員相互が協力しながら展開することにより、不況を克服して、着実な発展が期待できるものと確信しております。

まだ、入会者の募集を締切っておりませんので、どうぞ、設立の趣旨にご賛同される多くの校友企業の申し込みをお待ちしております。

詳細は、校友会事務局へお問い合わせ下さい。

## ●学園だより

### 学園本部

平成3年度の学園関係者の叙勲および受賞の方々はおおりのとおり。

勲二等瑞宝章

横堀武夫 機械工学科兼任教授

勲三等瑞宝章

境野照雄 元工業化学科教授

古川利夫 名誉教授

(社)日本セラミックス協会より

協会振興功労賞

関谷道雄 工業化学科教授

支部功績賞

瀬戸山克己 工業化学科教授  
日本オペレーションズ・リサーチ学会より

OR事例研究奨励賞

矢部眞 機械系学科教授

WFEO (世界工学団体連盟)

国際最高エンジニア賞

尾佐竹洵理事

(財)吉岡文庫育英会より

吉岡賞 (新人賞)

谷口宗彦 建築学科助教授

(社)日本設計工学会より

教育功労賞

山本清 専門学校主理

### 大学

●(仮称)自己評価委員会の設置に向けて

大学は、これまで真理の探求、人格の形成、学術文化の継承を社会から負託された使命として、その役割を果

たしてきた。しかし、社会の国際化、高度化、多様化等の動きの中で、大学の役割・機能が改めて問い直されている。例えば、教育目標のいっそうの明確化、人間の生涯の様々な段階における個としての知的要求に応えることなどが求められている。

改正された大学設置基準は、このような社会的動向を

#### 1992年度 入学試験結果

部	学科・コース	入学定員	志願者数		合格者数		志願者の前年比増減	
			前期試験	後期試験	前期試験	後期試験	前期試験	後期試験
第1部	機械系学科	300	3,261	376	633	33	▼502	△7
	工業化学科	150	1,286	111	413	20	▼173	▼11
	化学工学科	100	645	74	209	11	▼59	△26
	電気工学科	150	1,837	143	421	26	△390	△25
第2部	電子工学コース	200	1,654	117	285	12	▼148	△7
	情報工学コース		2,101	248	268	14	△34	△75
	建築学コース	260	2,721	403	359	58	△892	▼8
	都市建築デザインコース		1,448	332	161	26		
	合計	1,160	14,953	1,804	2,749	200	△434	△121
第2部	機械工学科	120		476		92		△74
	工業化学科	90		330		83		△107
	電気工学コース			161		28		△27
	電子工学コース		110	163		44		△11
	情報工学コース			261		33		△19
	建築学科	110		460		115		▼30
	合計	430		1,851		395		△208

背景とし、その特徴は、教育・研究の改善、活性化への努力を行っていくための自らの自己評価(点検)の必要性を顕在化したものといえる。

本学は、いま、独自の自己評価システムの構築に向け、全学的な検討を開始した。既に、実施体制を整えるための自己評価委員会規程案の検討が進められている。また、各科目の教育目標はシラバス(講義要項の形態改善)などにより学生に明示した。

今後、考えられる展開としては、評価主体(教育目標・内容)の到達点と課題の明示、評価方法(授業改善に向けた仕組等)の明確化、評価研究機関(評価方法、項目などの研究)の確立等が挙げられるが、未だ組織的には未経験なところが多く、課題達成には大学人の意志と責任に期待が寄せられているところである。

●入学試験結果について

1992年度大学入試は、第1部前期試験を2月6日～9日、第1部後期試験を3月7日、第2部試験を3月6日にそれぞれ行った。出願者の状況は前年比第1部555名増、第2部208名増となった。また女子志願者の仲率はめざましく、前年実績の31%を大幅に上回る1,215名となった。

### 高等学校

●クラブ活動

野球部の活動は、目覚ましいものがありました。西東京大会でベスト4に輝き、もしかしたらと期待した興奮はいまでも脳裏に焼きついています。新チームで戦った秋季大会でもベスト16、4年度に大きな期待を持たせてくれました。柔道部は3年連続関東大会へ出場、自然科学部は日本学生科学賞で学校賞1位(水ロケットの研究)と活躍してくれました。体育館の完成がさらにクラブ活動を活発にし、その成果を著しいものにしていくことと思います。



●就職状況

平成3年度就職状況は前年同様、各企業の積極的な採用活動により、予想を上回る『短期集中型』になった。求人会社数は8,204社で、前年比363社増加した。このうち従業員1万人以上の会社からの求人は73社、資本金100億円以上の企業からの求人は461社と前年に比べ73社増加している。

求人延数は23,972人、求人倍率は26倍である。就職内定者を業種別に見ると、電気電子機器が圧倒的に多く、以下建設業、輸送用機器、機械機器、情報処理等となり、首都圏への一極集中化がより顕著であった。

また、大学院進学率も年々高まっており、今年度は全学科で100人を超える状況である。

●進路状況

1月末現在の進学者は、工学院大学I部144名、II部61名、都立大、日大、神奈川工科大、大正大、帝京大、東京理科大に2名、短期大学に6名、工学院大学専門学校に25名、他専門学校に83名の状況で、進学決定率は約73%です。

就職は、例年のように数多くの求人会社があり、希望者36名全員10月末に内定しています。

●入学応募状況

平成4年度の入学応募状況は定員男子400名に対して、1075名の応募があった。

## 専門学校

平成3年度学校行事は例年通り行なわれました。

主な行事は、健康診断、後援会総会、昼間部体育合宿事業、製図・作品展、入学願書募集、卒業式等で終了しました。

現在新宿校舎構想棟と、両国校舎と分れて授業をしていますが、平成4年9月に中層棟が完成し、10月に移転します。専門学校校舎が新しく完成するのは始めてです。移転、整備等で大変忙しい年ですが、工学院大学専門学校が生まれ変わる年でもあります。

皆様のご支援をお願いします。

### 平成4年度の入学応募状況

科名	昼間部				夜間部	
	定員	推薦入学	一次	二次	定員	志願者
土木機械建築	40	17	28	14	40	35
建築設備	80	31	50	47	100	39
電気技術	80	116	219	136	100	241
電気	40	18	35	17	40	38
電子情報					40	56
応用化学	80	26	65	52	80	46
計	40	11	20	37	40	34
計	360	219	417	303	440	489

### 平成3年度採用の初任給（税込月収）

業種別	初任給区分		
	最高円	最低円	平均円
土木測量調査・設計・施工	206,000	161,400	178,870
建築施工技術	230,300	163,000	182,971
建築設計監理	212,840	144,600	175,747
建築設備設計・施工監理	212,000	147,980	167,037
施設機械・保守サービス技術	188,000	154,500	161,419
電気・電子・機械生産技術	224,770	138,500	162,531
情報処理サービス技術	204,500	147,500	165,114
化学系生産管理・品質管理・測定分析	210,000	133,750	165,194

### 平成3年度就職状況

求人難は益々深刻化、430名の求職者に対し、15,180人（前年比約5%増）の求人がありました。主な就職先は次のとおりです。

清水建設、東亜建設工業、ソニー、カバヤ工業、東京電力、関電工、トーヨーサッシ、帝人、旭化成工業、キヤノン販売、理想化学工業、日清紡績、三菱レイヨン、コニカ、サンケン電気、ヤクルト本社中央研究所、TDK、カシオ計算機、東洋建設、安藤建設、日東建設、日比谷総合設備、東京日産自動車販売、東京都庁、建設省地方建設局

### 平成3年度、採用先企業の規模別分布

企業規模 資本金・従業員数	平成3年度		
	社数	人数	分布(%)
100億円以上 又は3千人以上	57	85	19.10
10億円以上100億円未満 又は千人以上	67	88	19.78
1億円以上10億円未満 又は300人以上	101	138	31.01
1億円未満且つ300人未満 (自営・縁故就職含む)	89	115	25.84
公務員及び非営利団体	12	19	4.27
合計	326	445	100.00

## 学生・生徒の活躍

### ○高校野球部 甲子園は目前（夏大会）

高等学校野球部は、平成3年全国高等学校野球選手権西東京大会に3回戦から出場、成蹊高に4対0、4回戦に国立高に6対1、5回戦に明星高に9対2、準々決勝で創価高に10対2と順調に勝ち進み、創価高からは甲子園に行けよとエールがあり、誰しも甲子園は夢では無いと思った。

準決勝は、神宮球場に場所を移し、國學院久我山高と対戦1回高野君のホームランで3対1、勝利が目の前にちらつきはじめたところ、久我山高の弥重君の当たりは、始めヒットの判定だったがホームランに訂正され、この点が最後まで響き、好ゲームだったが6対5で惜しくも敗退、夏の夢はここで消えてしまった。来年もまた頑張ってもらいましょう。校友の応援をお願いします。

### ○専門学校エコランクラブ

アメリカの自動車メーカーの会長達がブッシュ大統領と共に来日し、日本に米車を買えと迫ってきた。馬鹿でかいガソリンをまき散らす。あの車を？と考えてしまう、



ところで、あなたの車はリッター何キロ走りますか。

写真の車は、専門学校の住野先生が指導しているエコランクラブ製作したエコノミカーである。この車で9月16日埼玉県桶川市で開催された。第2回省エネカー競技会全国大会で専門学校の部で見事優勝、リッター461.4キロであった。つづいて9月23日茨城県つくば市日本自動車研究所で開催された、'91第11回ホンダ・エコノパワー燃費競技全国大会で5位に入賞、リッター764.6キロであった。

### ○大学舞踏研究部

堅いイメージの工学院大学にあって、異色の舞踏研究部、毎年数々の成績を収め、昨年は第38回専日東三大戦優勝、東部Ⅱ部戦サンバの部・ルンバの部優勝。第63回東部戦チャカチャカの部優勝を始め、上位成績を数回、工学院の名を更に上げた。

### ○大学柔道部

工学院大学柔道部は文武両道の精神をモットーに日夜稽古に励み昨年は全日本理工科系、学生柔道優勝大学に於て、準優勝の成績を収めた。

●支部だより

■平成3年度支部総会報告

平成3年度は80支部中29支部に於いて支部総会が開催され、平成2年度より、8支部増え、多くの校友が参加され親睦を深められました。

開催支部はつぎの通りです。

- 4月20日(土) 広島県支部
- 5月18日(土) 千葉県支部
- 26日(日) 川崎支部 相模支部
- 6月2日(日) 宮城県支部
- 9日(日) 山口県支部 山形県支部
- 16日(日) 埼玉西支部
- 21日(金) 山梨県支部
- 23日(日) 秋田県支部 栃木県支部
- 29日(土) 高知県支部
- 7月1日(月) 東芝支部

- 7月7日(日) 群馬県支部
- 13日(土) 大阪支部
- 14日(日) 愛知県支部
- 8月24日(土) 北海道支部
- 9月1日(日) 静岡県支部
- 15日(日) 岐阜県支部
- 21日(土) 宮崎県支部
- 28日(土) 横浜支部 兵庫県支部
- 29日(日) 台湾支部
- 10月5日(土) 青森県支部
- 26日(土) 鳥取県支部
- 11月8日(金) 新潟県支部
- 9日(土) 長野県支部
- 22日(金) 沖縄県支部
- 12月8日(月) 入南支部

北郷学長が出席しての  
青森県支部総会

青森県支部長 外川 譲二

昨年の9月に台風19号が、ここ津軽地方を通過したため、特産であるリンゴが壊滅的な被害を受けた。その直後の10月5日に学長をお招きしての支部総会を予定していただだけに、学長に何をお見せすれば喜んで貰えるだろうかと一瞬困惑したが、津軽の自然は台風一過で微動だにせず、美しさを保っていた。当日は好天にも恵まれ、午前には弘前工業高校で全校生徒を前にしての学長のご講演、午後には私達弘前市民が誇りとしている公園や考古館などをご案内した。そして弘前から大鰐の会場までの間は台風の爪跡の残る道のみでした。会場である大鰐は温泉とスキーで県内では著名な所で、スキー場の山頂にあるゴルフ場にもお連れしたところ大変喜ばれ、時間があれば先生にプレーさせたい衝動にかられた。支部総会としては初めての泊りがけのコンパに、格式ばらずに「学



長を囲む会」という事で、先生と会員との交流をはかったところ、話しがはずんで、学長の教え子である私以外は初対面である会員が多いのに、和気合々裡に進行し、恒松組織部長の話術にも魅せられ夜半まで談笑が続いた。この度の支部総会ほど会員同志の絆が強化された事はなかったようで、ご出席頂いた北郷学長には心から謝意を表するとともに、本州の最北端でも細やかではあるが、毎年活動をしている事実を校友会ご諸兄にご認識いただければと献文報告致します。

台湾校友会第15回総会だより

杜 瑞 昌

1991年9月28日台湾校友会第15回総会が、台北市の湯の町北投の東南大飯店で盛大に開催されました。今回は15周年総会なので、新しく会長に推挙された劉維隆氏のご尽力で、日本全国校友会支部第7ブロックに属する沖縄県支部、及び台湾校友会の親睦を図る2回目の合同総会が挙行されました。1回目は6年前に台湾校友が、沖縄での合同総会に参加しました。日本全国校友会支部を7ブロックに分轄し、同ブロック内の校友の親交を昂揚するための合同総会を、沖縄、台湾は率先して開いて居ります。

沖縄校友は高江州前支部長外8名が参加され、外に本部から丹羽校友会会長夫妻、落合康男(前校友会支部拡充部長、台湾校友会創立者)、古屋前静岡県支部長、溝上山口県支部長、瀬戸川睦人(日航機士、台湾校友会深縁者)の方々のご参加で、日台校友10年振りの総会が開かれました。

午後5時に開会、劉会長の挨拶、丹羽校友会会長の祝辞、母校の現況、100周年記念事業募金の説明、高江州前沖縄県支部長の挨拶、外、自己紹介等で、7時に閉会されました。

沖縄校友は皆、40~50才の若い方々に比し、台湾校友

は50年前に母校で修業した70坂の老人ばかりです。母校は台湾とは縁が深く、昭和3年工手学校機械科を修了した80才の老年輩が居られます。

民主主義国に移り行く台湾、近き将来、台湾子弟が、首都の都心型母校を慕って留学に行き、台湾校友会を引継いで下さるようにと我々は念願してやみません。そして近き将来、母校が台湾の大学と姉妹校を結ばれるようにと祈っています。

7時半懇親会に移りましたが、今回も劉会長の特別の配慮で楽団が招かれ、生オーケストラで台湾料理を味わいながら日本の懐かしいメロディーに、自己嘆息慢に、母校の校歌も古屋先輩がリーダーで歌われる等、日台校友は更け行く秋の夜を楽しみました。最後に沖縄校友は、この親睦会を2年に1回、交代地域で合同総会を開こうとの提案もあって、再会を約して盛会に終了しました。参加者ご芳名(順不同)

- 丹羽校友会会長・同夫人、落合康男、古屋留三、溝上俊治、(沖縄校友会)高江州 隆、松田幸吉、松島俊光、徳原兼四郎、与儀清吉、平良常治、馬上弘助、清水晴善(台湾校友)劉維隆(工学院107回機械 昭18年卒)・同夫人、楊煥銘(工手78回機械 昭3年卒)・同夫人、駱柳村(工学院92回土木 昭10年卒)・同夫人、杜瑞昌(大学1部工化5回 昭31年卒)・同夫人

(注)執筆者の杜瑞昌氏は、台湾校友会初代会長で、同会創立の功労者です。

会 員 紹 介

○温泉町の町長さん

群馬県には温泉が沢山ある。その一つに奥利根を代表する水上温泉がある。この水上町の町長藤越孝夫氏が本学(大学工業化学科化工コース42年卒、専修学校建築科44年卒)の出身者である。氏は大学・専修学校と学んだ後、故郷に帰り、家業(建築業)を継ぎ、昭和50年に町議選に立候補し当選し、以来4期15年在職、平成2年任期途中で辞職、町長選に立候補し、激戦の中見事に当選第8代町長になられた。現在地元の発展のため力を入れて活躍中である。

今年1月に湯沢で行われた専門学校同窓会に出席した際、地元の六日町町議の長嘉松氏(31年専修学校卒)とホテルのロビーでお互いに顔を見かけたが、なぜこんな所に彼が居られるんだろうと思っていたとのこと、会場に来てびっくり、両町は県境を挟んで隣同志、現在両町では県境にトンネルを作り、人造湖めぐり観光コースを計画中、お互いに会議では顔は知っていても、同窓生であることは知らなかったのです。

長氏曰く「そうだからお、会議ではどこの学校の卒業かなど聞かないもん」世の中狭いものである。こんな縁で来年の専門学校同窓会の新年会は、水上に決まったようである。校友の皆様も水上温泉にどうぞ。



## ■東京地区支部統合について

昨年度に引きつづき、東京地区の活動の停止している支部をどうすべきかの対策について、いろいろな話し合いや検討をつづけた結果、存続してゆける支部に対しては、そのまま形で存続することとし、それ以外の支部については、統合すべきとの意見にまとまりつつあります。

第1回東京都支部（仮称）設立準備委員会発足会議は、平成4年1月12日母校に於いて開催、ハナ肇氏に支部長になって頂けないだろうか、との意見にハナ肇さんは「自分でよければお手伝わせて頂きます」と心よい返事をして下さいました。

つづいて、ハナ肇さんは2時間半にわたり、人生観及び母校愛等の話しをして下さり、一人でも多くの方に集まってもらい、出発しようということになりました。出席者は21名であった。



第2回発足会議は平成4年3月13日母校に於いて開催、支部長にハナ肇氏、事務局長に本多恵治さんを選出、ハナ肇さんのあいさつは、まず2人集まったら、酒を飲み、3人集まったら酒を飲み、10人集まったら酒を飲み……と、ともかくだんだん多く集まってゆこうとの話に、一同感心。

つづいて酒をくみかわしながらハナ肇さんは、一人々と気軽に話しながら写真におさまってくれた。

今後は東京支部に参加の意志のある支部より、参加してゆくこととなります。



## ■平成4年度支部総会開催予定

平成3年度の支部総会開催支部は前会報112号にご案内した24支部中22支部が実施いたしました。ご参加いただきました皆様に感謝致します。平成4年度支部総会開催予定をご案内致します。何分先のことですので、各支部の方に電話を入れて、日時、場所をご確認の上、ご出席いただきますようお願い致します。

平成4年度

4月17日(金) PM6:00 富山支部

TEL 0766-56-4748 山本修宅

4月25日(土) PM0:30 大分県支部

場所 ビジネスホテル ほがらか 大分市内

TEL 0975-46-0246 橋崎政男宅

4月25日(土) 中野・新宿合同支部総会

TEL 03-3384-1511 (樋口宅)

4月25日(土) 広島県支部

TEL 082-237-1720 花田義美宅

5月17日(日) PM1:00 長崎県支部

場所 東急ホテル TEL 0958-25-1501

TEL 0958-79-0395 (江口宅)

5月31日(日) AM11:00 宮城県支部

場所 東北電気会館 仙台市青葉区中央

TEL 022-287-2520 山本支部長宅

※6月7日(日) AM11:00 栃木県支部

場所 南大門 (宇都宮市今泉3-2-18)

TEL 0286-75-0511 阿久津利宅

※6月13日(土) PM5:00 長野県支部

場所 長野市に於いて

TEL 0268-22-1215 信州大学内 鳥羽栄修

※6月14日(日) PM3:00 埼玉西支部

場所 紫雲閣 東松山市内

TEL 0493-22-1361

※6月19日(土) PM5:00 山形県支部

場所 鶴岡市に於いて

TEL 0236-42-8510 渋谷成一

※6月19日(土) PM5:00 大阪支部

場所 東洋ホテル

TEL 06-862-8987 近藤竹司宅

※6月21日(日) PM5:00 群馬県支部

場所 高崎ビューホテル

TEL 0273-22-1602 古山圭一

※6月27日(土) PM5:00 高知県支部

TEL 0888-60-6067 三輪伸太郎宅

7月1日(水) PM2:00 東芝支部

場所 母校28階会議室

TEL 03-3457-8284 東芝輸出管理本部 山中義康

7月5日(日) AM12:00 千葉県支部

場所 千葉駅ビル5Fペリエホール

TEL 0474-48-4811 佐藤正吾

7月22日(水) PM7:00 日本電気支部

TEL 044-548-8873 内22-64000 田中芳郎

8月8日(土) PM5:00 北海道支部

場所 札幌市すすき野に於いて

TEL 011-781-7854 馬淵寛志宅

9月6日(日) 愛知県支部

場所 蒲郡に於いて

TEL 052-763-1873 山田正勝宅

9月13日(日) 秋田県支部

場所 秋田市内に於いて

TEL 0188-79-2020 中川勝二宅

9月未定 静岡県支部

TEL 0542-82-3855 山崎弘資宅

9月26日(土) PM5:30 兵庫県支部

場所 未定

TEL 078-391-0935 岡本耕一宅

9月26日(土) 台湾支部

場所 未定

TEL 台北 02-7971581 劉維隆宅

10月4日(日) AM11:30 相模支部

場所 未定

TEL 0427-42-5413 スミノル設備 清水

10月18日(日) PM2:00 多摩支部

場所 立川市内に於いて

TEL 0425-23-1984 池津照明宅

10月18日(日) PM6:00 江東支部

場所 ホテルサニサイド江東区東陽町

TEL 3641-2379 篠原梅吉宅

10月未定 青森県支部

場所 むつ市に於いて(一泊二日の予定)

TEL 0172-36-4034 外川譲二宅

※10月未定 鳥取県支部

TEL 0858-23-1531 尾崎事務所内

※11月1日(日) PM1:00 新潟県支部

場所 ニュー安兵衛 新潟駅前

TEL 0254-26-0087 谷口宏宅

※11月7日(土) PM2:00 横浜支部

場所 母校新宿校舎 28階

TEL 045-881-6911

※11月20日(金) PM7:00 沖縄県支部

場所 パシフィックホテル沖縄

TEL 098-832-9946 (南設計集団閣内支部事務局)

## 会 員 紹 介

### ○外国の首都の議員さん

中国の北京市は中国の首都であり政府直轄市である。その市会議員（正式には北京市委員会委員＝都会議員と同格）呉正三氏は本学園（専修学校電気科28年卒）の出身者である。氏は電機学校卒業更に本校を卒業、周恩来首相の祖国建設の為に技術者は帰って手を貸してほしい、という呼びかけに応じ帰国、発電所建設に従事後、その後中国科学院に勤務され、中国の科学技術の発展に寄与されました。定年退職後、国家に功労があったことにより100%の恩給が支給されている。現在市委員会委員に推挙され活躍中である。





## ● 部会報告

### 総務部

総務部は各部門の調整と常任理事会・理事会・および総会・評議員会における諸々の準備を主業務としており、常日頃から校友の親睦と本学園の発展を念頭に事務局共々協力してきた。平成3年度の主な関連活動項目を以下に列挙したい。

第1回理事会 (H. 3. 4. 7)

- 議事 1. 前年度事業報告および決算について  
2. 表彰者について

第2回理事会 (H. 3. 9. 26)

- 議事 1. 校友会費値上げについて  
2. 学園100周年記念募金促進について  
3. エステック情報協会準備委員会報告  
4. 定款改訂委員会中間報告

第3回理事会 (H. 3. 12. 11)

- 議事 1. 定款改訂答申案の審議  
2. 校友会費改定について  
3. 次期評議員選出結果について

第4回理事会 (H. 4. 3. 27)

- 議事 1. 来年度事業計画および予算について

### 財務部

各地で御活躍されている校友の皆さん、お元気で過ごしのこととお慶び申し上げます。

校友会の諸活動につきまして、御高配を戴いており、感謝申し上げます。特に100周年記念募金につきましては多大な御協力を戴き、誠に有難う御座いました。お陰様をもちましてどうにか募集期間を終了し、ある程度の実績を得ることができました。

校友会の財務は何とか御援助戴き感謝申し上げます。平成3年度の会計も例年通りの収支決算になることができることになり、一安心しているところです。幸い御支援と学生納入費が時期的に4年のずれを生じております

### 平成3年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記の通りである。

評議員会 (H. 3. 5. 26)

総会 (H. 3. 5. 26)

理事会 (4回)

常任理事会 (10回)

総務部会 (4回)

財務部会 (4回)

広報部会 (2回)

企画部会 (1回)

事業報告 (2回)

組織部会 (10回)

監査会 (1回)

以上の他定款改訂委員会・校友多数在職企業世話役懇話会と懇親会・同左プロジェクトチーム 会合・エステック情報協会設立準備委員会 (7回)・東京都支部設立準備委員会 (2回)・募金実行委幹部会・次期評議員集会等々が開催された。

ので、緊縮財政ながら現在あまり収入減になっておらず、すくわれた感じですが、これからの学生数の激減期に入るため、長中期の財政の計画を立てる必要に迫られています。支援活動などはより多くの援助を必要とすることが急務のように考えられます。今後より校友会の発展に資するべく、予算編成など検討することが必要と思われます。

今回で小生はその責をおり、代りの方が今後を担当するようになると思います。長らく御支援を戴きましたことを感謝致しますとともに、今後より一層の各位の御協力をお願い申しあげる次第です。 (大柳 康)

### 企画部

校友会の懸案事項でありました新大学棟における校友会スペースの確保についてはその対応するものとして現在建築中の中層棟8階約50坪のファカルティークラブを校友会の会員のために用意されており、その利用方法について、又あわせて年2回の校友会報発行についても、現在校友会賛助会員 (協会員に変更) 約300名を対象

### 事業部

1. 第10回全国大会 (広島大会) 開催準備

開催要項が別項の通り決定しました。校友各位のご支援ご協力をお願いします。隔年の運営事業といえば、関係各位におかれましては大変な労力があります。

今後も継続する事業とはいえ非常に困難を伴う事であり、一考を要する問題と思われれます。

2. 新年懇親会を去る1月25日 (土) ~ 26日 (日) に箱根湯本温泉「ホテルおかだ」に於いて開催され、学園より北郷学長を迎え、校友の親睦を深めることができました。

3. 校友会カード発行準備

この度、予てより検討中であった校友会カードを

に各同窓会別に、又同時に本学園卒のオーナー企業に対してもサンプリングをもってアンケートを実施中であり、エステック街区の竣工に伴い、都心型校友会を目標に学園及び他部門との協調のもとに新しい校友会の実現に努力して参りたいと思います。

(企画部長 小高 鎮夫)

大手クレジット会社2社 (第一勧銀カード/住友VISAカード) と提携し、「校友会エステックハートカード・校友会エステック VISAカード」を発行する運びとなりました。

このカードは、一般のクレジットの機能に校友会独自の特典を付加した価値あるカードです。

なお、カード会社との提携手数料の収益を財源として、在学生のための奨学金制度等に活用すべく検討を考へております。

詳しくは、総会までにご案内が出来るように準備中です。

この機会に是非どちらかの「カード」への入会をご検討ください。



●お知らせ

表彰 (平成3年度総会に於いて)

- 感謝状贈呈  
静岡県支部長 山崎 弘資  
大阪支部長 庭野 七郎  
山梨県支部長 市川 光雄
- 表彰状贈呈  
千葉県支部35年史編集委員長 高橋 卓雄
- 学生・生徒の表彰状贈呈

種別	学 科 学 年	氏 名
大学院	工業化学専攻博士課程3年	山口 和男
	機械工学専攻修士課程2年	岡 林 弘樹
	電気工学専攻修士課程1年	小野垣 仁
	建築学専攻修士課程2年	田 澤 貴志
大 学	機械工学科2年	狩 野 靖己
	〃	一法師 淳学
	〃	小見山
	工業化学科2年	高 木 譲一
	化学工学科2年	岩 野 武彦
	〃	若 林 敏彦
学 校	電気工学科3年	沓 掛 勇二
	電子工学科電子工学コース2年	藤 田 二義
	〃 情報工学コース4年	小 倉 千草
	建築学科2年	正 木 武浩
〃	竹 内 一幸	
〃	洪 谷 政幸	
専門学校	土木科2年	高 橋 武正
	建築科B2年	川 田 明彦
	電子情報科2年	有 賀 時子
	建築設備科2年	山 口 慶子
高等学校	普通科2年	小 出 恵嗣
	〃	高 橋 威史
	〃 3年	松 井 茂充

訃報

八木平八郎氏が、平成4年1月11日に、葉石効なく他界されました。故八木氏は、現校友会理事及び練馬支部長在任期間中でありましたが、なお元学園同窓会会長および元機械工学同窓会会長等を歴任され校友会への貢献度は大きく、ここに謹んで心から哀悼の意を表すると共に、ご冥福を祈念申し上げます。

平成4年1月28日には、本学園顧問・元財務担当常務理事富子勝久殿が、ご逝去されました。校友会としても本学園における経理面での健全財政へのご尽力に感謝し十分な弔慰を表しました。

見舞

度重なる雲仙周辺の震災には、校友会本部として心を痛めている次第ですが、島原地区在住の校友各位へのお見舞と共に激励の電報を打ちました。

賛助会員の名称変更

現在、正会員より賛助会費を納めて頂き、会の運営の一助としていました。しかし、賛助という性格から正会員が納めるのは不自然であるなどの意見あり、定款施行細則の改訂に合わせて、賛助会費を法人維持協力金とし、賛助会員を協力会員とする案が総会に上程されることになりました。ここで承認されますと上記の名称に変更されます。

●新役員紹介

平成4年3月2日、次期評議員会を開催、まず理事、監査を選出、つづいて次期理事会を開催。12名の常任理事を選出。次期常任理事会において、会長に南雲芳夫氏を推薦、次期理事会および評議員会はこれを承認された。なお南雲氏の出身母体から宮沢氏が副会長、梶野氏が理事に新たに選出された。



新会長(左)と前会長

会 長 南雲 芳夫  
昭和8年12月25日生  
昭和31年 工学院大学専  
修学校建築科卒  
三芳建設株式会社(株)工  
学院大学監事(学)工学院大  
学専門学校同窓会長

副会長 梶本 忠良  
昭和25年 工学院大学高  
等学校卒  
昭和27年 工学院大学短  
大電気工学科卒  
日立プラント建設サービ  
ス(株)顧問 工学院大学専  
門学校同窓会副会長

高木 雅行  
昭和30年6月26日生  
昭和57年 工学院大学大  
学院修士課程終了  
一級建築士(株)SUM建  
築研究所 工学院大学建  
築学科同窓会長

宮澤 正義  
昭和14年3月14日生  
昭和35年 工学院大学専  
修学校機械科卒 同校電  
気科卒・産能短大卒・放  
送大卒 工学院大学専門  
学校教員 工学院大学専  
門学校同窓会副会長

関戸 岐  
昭和10年5月5日生  
昭和34年 工学院大学電  
気工学科卒  
(株)東芝 家電本部 協和  
特許法律事務所・技術領  
関(学)工学院大学評議員  
工学院大学電気同窓会長

酒井 史生  
昭和19年10月13日生  
昭和43年 工学院大学専  
修学校機械科卒  
酒井光器(株)社長(学)工  
学院大学評議員 工学院大  
学専門学校同窓会副会長

関口 勇  
昭和41年 工学院大学大  
学院修了 工学院大学生  
産機械工学科助教・工  
学博士 工学院大学機械  
工学同窓会副会長

小高 鎮夫  
昭和10年12月12日生  
昭和34年 工学院大学建  
築学科卒 白石建設(株)営  
業次長(学)工学院大学評  
議員 工学院大学建築学  
科同窓会副会長

石成 和男  
昭和5年3月10日生  
昭和24年 工学院第一工  
業学校電気科卒 昭和29  
年 工学院大学短期学部  
電気科卒 日光電子(株)取  
締役 工学院大学高等学  
校同窓会副会長

理 事 (上記役員は除く)

機 械	応 化	電 気	建 築	専 門	高 校
青野 毅	木下 忠雄	井出 英人	岩田 俊二	阿部 洵	秋山 和明
上野 寿幸	高木 成幸	内山 太	金尾 武彦	梶野 和巳	太田 雅康
荻島 泉	長島 珍男	椎塚 久雄	神前 健	高橋 孝治	佐合 道也
清水寛一郎	船越 勇	高橋 静昭	山積 晃	遅野井孝夫	滝島平八郎
杉山 助一	本多 恵治	中場十三郎	谷口 宗彦	中島 孝明	錦見 彰
田中 博国	山田 文昭	松為 迪夫	南迫 哲也	山本 清	吉岡 暁一
監 事	後藤弘太郎 (機械)	大谷 一夫 (応化)	寺島 敬二 (専門)		

●全国大会

## 第10回全国大会（広島大会）開催のお知らせ

校友会第10回全国大会が、広島県支部及び中国地区各支部の協力により広島県宮島にて左記の日程で開催されます。

1980年11月、第4回全国大会を同じ宮島にて行いましたが、校友会諸兄の要望により12年ぶりに再び開催することになりました。宮島は去年の台風で大きな被害を受けましたが、一部を除き修復しました。

安芸の宮島は紅葉が朱の鳥居と社殿に映えて、日本三景にふさわしい眺めです。また大鳥居を前に舞われる舞楽もたのしみです。同窓の友達をお誘いの上是非ご参加くださるようお願い申し上げます。

ご夫婦同伴のご参加もお待ちしております。

### 全国支部長会開催のご案内

平成4年度支部長会を下記日程で開催します。

期日 平成4年11月14日(土) 午前11時から2時

場所 広島県佐伯郡宮島町 宮島町観光会館

錦水館 (0829-44-2131)

議題 未定(新組織部役員協議上決定)

会終了後全国大会にご出席下さい。

当日一人でも多くの支部長さんのご参加をお待ちしております。



- 記
1. 開催日 平成4年11月14日(土)  
15日(日)
  2. 会場 広島県佐伯郡宮島町  
宮島町観光会館  
錦水館 (0829-44-2131)
  3. 受付 13時、開会15時
  4. 講演 会員 ハナ肇氏(予定)
  5. 会費 18,000円(一泊)
  6. 問い合わせ先  
校友会本部 03-3342-2064  
広島県支部 082-237-1720  
校友会事業部・広島県支部

社団法人 工学院大学校友会

## 第47回評議員会 第36回総会 開催お知らせ

会長 南雲 芳夫

- 日時 平成4年5月24日(日) 13時~15時  
場所 工学院大学新宿校舎高層棟3F  
0312教室 大階段教室
- 議案 (資料参照)
- |                              |                   |
|------------------------------|-------------------|
| 第1号 平成3年度事業報告並びに収支決算報告書承認の件  | 第4号 定款細則一部改訂に関する件 |
| 第2号 平成3年度財産目録承認の件<br>◎同上監査報告 | 第5号 校友会会費改定の経過の件  |
| 第3号 平成4年度事業計画(案)並びに収支        |                   |
- (注1) 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答ください。  
(注2) 施行細則第10条により、当該議事について意思表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。

記念講演『学園の財政と情報化問題の現状と展望』

懇親会 (講演終了後、於28階 第1および第2会議室)

学校法人工学院大学  
学園統合情報システムセンター長 黒川恒雄先生  
財務担当常務理事

理事長・学長・専門学長・高等学校長始め  
学校側の多数のご来賓をお招きしてあります。  
学友お誘い合せの上、ご参加ください。

## 平成3年度事業報告書

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助した。 2. 学園将来計画に協力した。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修を援助した。 優秀な学生には各学校毎に表彰した。
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報112号を発行した。 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の整備を支援した。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会を開催した。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 懇親会等の開催した。 2. 支部の支援を行い、支部組織の活性化を図った。 3. エステック共同利用事業を推進した。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等の援助を行なった。
その他目的を達成するために必要な事業 (定款第5条第7項)	1. 学校法人工学院大学創立百周年記念募金に協力した。 2. 定款改訂のための委員会にて原案を作成した。

## 平成3年度収支計算書

平成3年4月1日から平成4年3月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
(収入の部)				旅費・交通費	( 200,000)	( 114,450)	( 85,550)
会費収入	25,970,000	25,980,500	△ 10,500	通信費	( 6,759,000)	( 4,688,325)	( 2,070,675)
会費収入機械工学同窓会	( 3,369,000)	( 3,369,000)	( 0)	振替手数料	( 90,000)	( 98,893)	(△ 8,893)
会費収入応化会同窓会	( 2,475,000)	( 2,475,000)	( 0)	事務用品費	( 600,000)	( 560,076)	( 39,924)
会費収入電気同窓会	( 4,114,000)	( 4,114,000)	( 0)	消耗備品費	( 100,000)	( 174,152)	(△ 74,152)
会費収入建築学科同窓会	( 3,262,000)	( 3,262,000)	( 0)	印刷製本費	( 1,600,000)	( 1,682,575)	(△ 82,575)
会費収入高校同窓会	( 4,188,000)	( 4,188,500)	(△ 500)	修繕費	( 100,000)	( 184,241)	(△ 84,241)
会費収入専門学校同窓会	( 8,562,000)	( 8,572,000)	(△ 10,000)	賃借費	( 628,000)	( 599,252)	( 28,748)
賛助会費収入	3,500,000	6,356,000	△ 2,856,000	対外費	( 200,000)	( 0)	( 200,000)
賛助会費収入	( 3,500,000)	( 6,356,000)	(△ 2,856,000)	慶弔費	( 300,000)	( 410,174)	(△ 110,174)
雑収入	7,924,000	11,445,707	△ 3,521,707	公租公課	( 130,000)	( 300)	( 129,700)
受取利息・配当	( 7,924,000)	(11,252,707)	(△ 3,328,707)	資料作成費	( 500,000)	( 584,273)	(△ 84,273)
寄付金収入	( 0)	( 40,000)	(△ 40,000)	調査費	( 700,000)	( 228,869)	( 471,131)
雑収入	( 0)	( 153,000)	(△ 153,000)	雑費	( 100,000)	( 134,971)	(△ 34,971)
当期収入合計(A)	37,394,000	43,782,207	△ 6,388,207	本部会議費S	( 0)	( 541,836)	(△ 541,836)
前期繰越収支差額	0	0	0	通信費S	( 0)	( 122,090)	(△ 122,090)
収入合計(B)	37,394,000	43,782,207	△ 6,388,207	予備費支出	0	500,000	△ 500,000
(支出の部)				慶弔費	( 0)	( 500,000)	(△ 500,000)
事業費	8,466,000	7,639,303	826,697	人件費	8,540,000	8,503,036	36,964
会報・出版費	( 1,820,000)	( 1,816,920)	( 3,080)	給与手当	( 7,460,000)	( 6,703,259)	( 756,741)
学生・生徒奨励金	( 700,000)	( 481,595)	( 218,405)	福利厚生費	( 580,000)	( 922,077)	(△ 342,077)
支部対策費	( 2,526,000)	( 3,027,294)	(△ 501,294)	退職金	( 0)	( 377,700)	(△ 377,700)
總會等大会費	( 1,100,000)	( 802,230)	( 297,770)	退職給与引当預金支出	( 500,000)	( 500,000)	( 0)
広報部費	( 250,000)	( 207,872)	( 42,128)	特定預金支出	4,500,000	14,650,000	△10,150,000
組織部費	( 200,000)	( 68,366)	( 131,634)	会館建設引当預金支出	( 2,000,000)	(10,000,000)	(△ 8,000,000)
事業部費	( 370,000)	( 217,350)	( 152,650)	減価償却引当預金支出	( 0)	( 300,000)	(△ 300,000)
企画部費	( 200,000)	( 196,936)	( 3,064)	賛助会費引当預金支出	( 2,500,000)	( 4,350,000)	(△ 1,850,000)
賛助会費割戻金	( 1,300,000)	( 820,740)	( 479,260)	予備費	1,934,000	500,000	1,434,000
運営	13,954,000	11,308,317	2,645,683	当期支出合計(C)	37,394,000	42,600,656	△ 5,206,656
本部会議費	( 1,147,000)	( 732,080)	( 414,920)	当期収支差額(A)-(C)	0	1,181,551	△ 1,181,551
役員交通費	( 800,000)	( 451,760)	( 348,240)	次期繰越収支差額(B)-(C)	0	1,181,551	△ 1,181,551

(注) △印は予算比超過となる金額である。

## 平成3年度貸借対照表

平成4年3月31日現在 (単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
1.流動資産	50,164,668	1.流動負債	214,220
2.固定資産		2.固定負債	73,828,653
基本財産	10,000,000	3.正味財産	110,648,927
その他固定資産	124,527,132	(うち基本金)	(10,000,000)
固定資産合計	134,527,132		
合計	184,691,800	合計	184,691,800

## 平成3年度財産目録

平成4年3月31日現在 (単位：円)

資産の部	金額	負債及び正味財産の部	金額
流動資産		負債	
1.現金・預貯金	49,706,096	1.未払金	110,000
2.短期有価証券	458,572	2.一般預かり金	104,220
固定資産		3.在学生会費預り金	72,090,250
1.基本財産引当預金	10,000,000	4.退職給与引当金	1,738,403
2.什器備品	2,105,853	正味財産	110,648,927
3.電話加入権	102,800	(うち基本金)	(10,000,000)
4.長期預金	122,318,479		
合計	184,691,800	合計	184,691,800

## 平成4年度事業計画(案)

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成 (定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する。 2. 学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成 (定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修助成。 優秀な学生には各学校毎に表彰する。
会誌および学術図書の刊行 (定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行。 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催 (定款第5条第4項)	1. 学術講演会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置 (定款第5条第5項)	1. 懇親会等の開催、全国大会の開催。 2. 支部の支援、支部組織の活性化を図る。 3. エステック共同利用事業の推進を図る。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助 (定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業所の紹介等の援助を行なう。

## 平成4年度収支予算計画(案)

平成4年4月1日から平成5年3月31日まで

(単位：千円)  
(△印は前年度より減を示す)

科目	予算額	前年度予算額	増減	科目	予算額	前年度予算額	増減
1 収入の部				通信費	5,485	6,759	△1,274
基本財産収入	1,100	0	1,100	振替手数料	100	90	10
会費収入(6単体)	30,958	25,878	5,080	事務用品費	700	600	100
*賛助会費収入	3,500	3,500		消耗備品費	100	100	
雑収入	8,100	7,924	176	印刷製本費	1,737	1,600	137
当期収入合計	43,658	37,302	6,356	修繕費	100	100	
前期繰越収支差額	1,500	37,900	△36,400	賃借費	570	628	△58
収支合計	45,158	75,202	△30,044	対外費	200	200	
2 収支の部				慶弔費	300	300	
●事業費	(10,554)	( 8,466)	( 2,088)	公租公課	130	130	
会報・出版費	2,346	1,820	526	雑費	100	100	
学生・生徒奨励金	700	700		調査費等	900	1,200	△300
支部対策費	3,860	2,526	1,334	●人件費	( 8,540)	( 8,540)	
総合等大会費	1,400	1,100	300	給与・手当	7,488	7,460	28
広報部費	198	250	△52	退職給与引当預金繰入	500	500	
組織費	200	200		福利厚生費	552	580	△28
事業部費	350	370	△20	●積立預金	(10,800)	( 4,500)	( 6,300)
企画部費	200	200		会館積立預金	8,000	2,000	6,000
*賛助会費割戻金	1,300	1,300		*賛助会費積立預金	2,500	2,500	
●運営費	(12,799)	(13,954)	(△1,155)	減価償却引当預金	300	0	300
本部会議費	1,377	1,147	230	●予備費	( 965)	( 1,842)	( △877)
役員交通費	800	800		当期支出合計	43,658	37,302	6,356
旅費交通費	200	200		当期繰越収支差額	1,500	0	1,500
				次期繰越収支差額	1,500	37,900	△36,400

\*印はそれぞれ協力会費収入、協力会費割戻金に名称変更の予定である。(17頁の記事参照)

(平成4年3月27日作成)



**NHKによく出る風景** 右側の工事中のビルが  
エステックオフィス棟  
その左が教学高層棟



**工事中の教学中層棟**